

交通安全だより

平成26年9月

第177号

秋の交通安全 市民運動実施!!



平成26年9月21日(日)～9月30日(火)

1 運動の基本

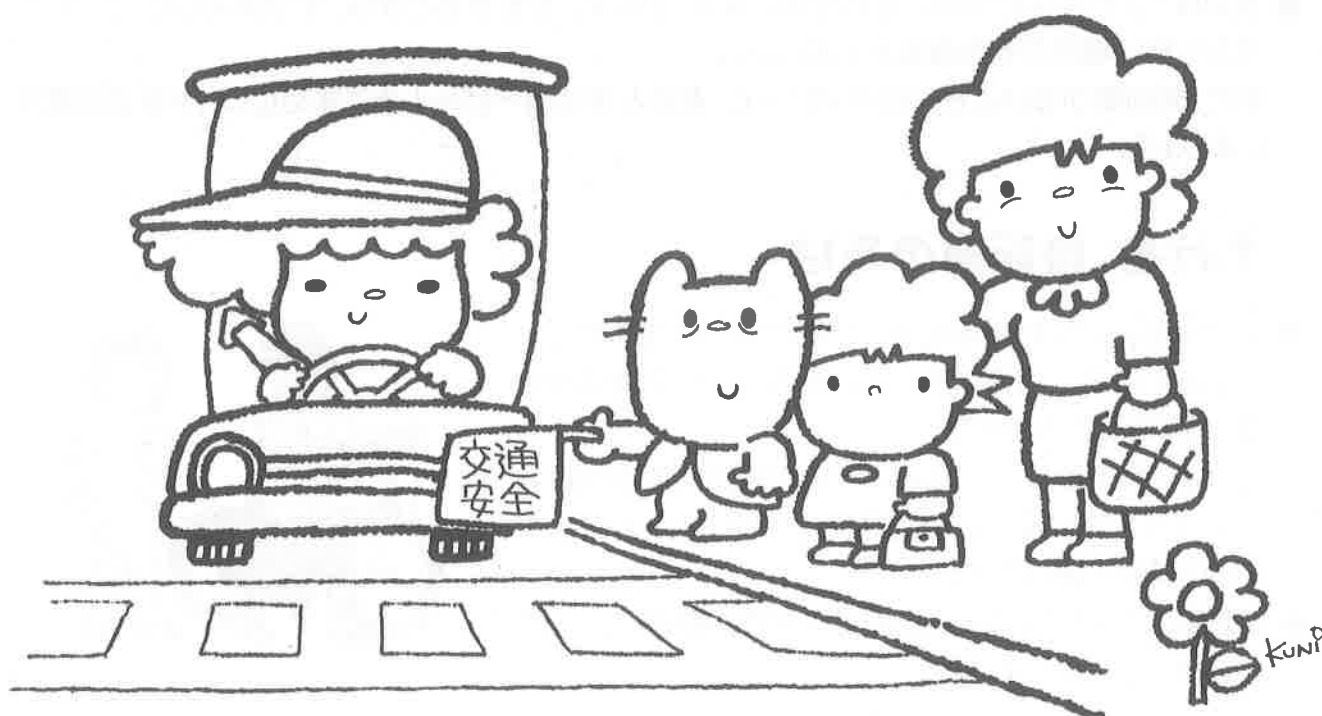
重

- 子どもと高齢者を交通事故から守ろう

2 取組重点

点

- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故をなくそう
- すべての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう
- 飲酒運転を根絶しよう



秋の交通安全市民運動

秋は、行楽やスポーツなどで外出する機会が増え、人や車の動きが活発になります。

また、秋の日はつるべ落としと言われるように、日没時刻が日増しに早くなることから、運転者にとっては歩行者・自転車が見えにくくなります。さらに、夕暮れ時は交通量が増えることもあり、高齢者を始めとした交通弱者が交通事故にあう危険性が高まります。

今年、蒲郡市内では交通事故により2名の方が犠牲者となっております。本運動では、市民一人ひとりの交通安全意識を高め、歩行者、自転車の交通事故の防止を図りましょう。



歩行者・自転車の交通事故防止のために



次のことに注意しましょう。

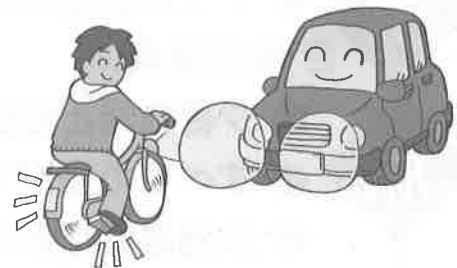
運転手の方は

- 夕暮れ時は目の錯覚により、物の動きが実際より遅く感じます。昼間以上の注意、安全確認をしてください。夕暮れ時の前照灯点灯は交通事故防止に効果があるといわれています。

前照灯の点灯は、日没1時間前を目安に早めに点灯し自転車の存在をアピールしましょう。

【9月は17:00がライト点灯の目安です】

- 夜間はライトの当たらない死角が増えます。特に右・左折するときは、十分減速して、ライトが当たらない場所の安全確認をしましょう。また、対向車がないときにはハイビーム、あるときはロービームとこまめにライトを切り替えましょう。

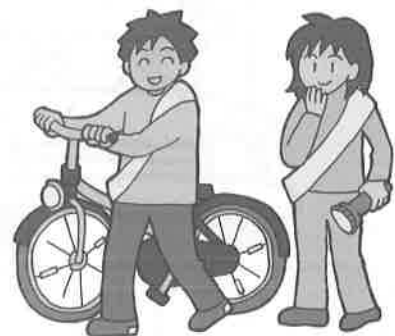


歩行者、自転車の方は

- 明るい服装や反射材等を身に付け自分の存在をアピールしましょう。特に夜間は黒っぽい服装の方が交通事故に遭う確率が高くなります。

黒っぽい服装は、ヘッドライト下向きの場合、明るい服装に比べ約1.5倍、反射材着用時に比べ約2倍以上自動車からの発見が遅れます。

- 自転車はライトを点灯し、反射材を付け自動車に自分の存在をアピールしましょう。



シートベルト・チャイルドシートを必ず締めましょう。

① 後部座席で死亡した人の多くがシートベルト非着用でした

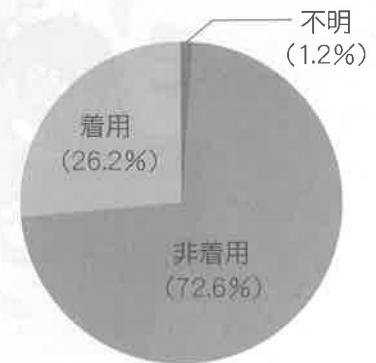
後部座席で死亡した人の多くはシートベルトをしていませんでした。

クルマの安全運転は、乗る人すべてがシートベルトやチャイルドシートを着用・使用することから始まります。



40km/hでの
衝撃は体重の
30倍以上です。

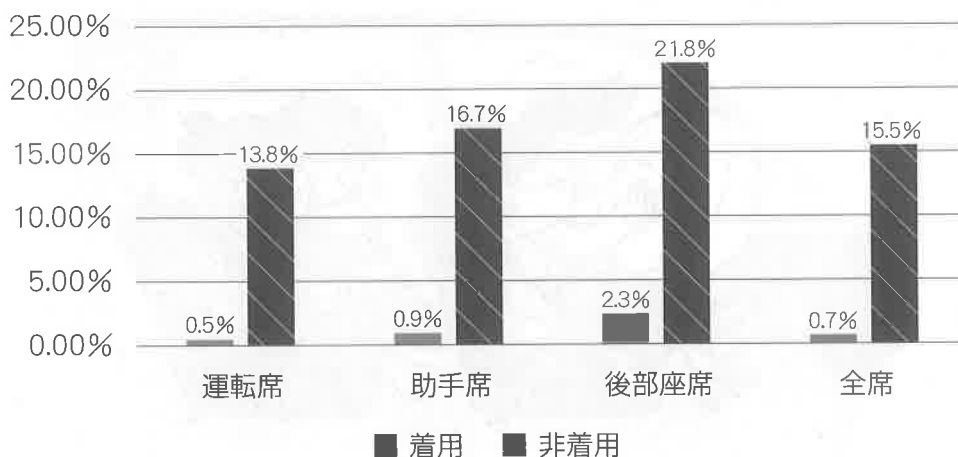
後部座席のシートベルト着用有無別死者の割合 (平成25年中)



② 後部座席のシートベルト非着用は車外放出の危険が！

後部座席でシートベルトをしていないで交通事故に遭った場合、「車外放出」される危険性が増します。また、衝突時の衝撃により、前席の人をも危険にさらす恐れがあります。JAFの資料によれば、時速40kmで壁等に衝突した場合、シートベルトをしていなければ、体重の30倍以上の力で前に飛び出してしまう。

座席位置別・シートベルト着用有無別 (平成25年中)



③ 子どもにはチャイルドシートが必要です

時速40kmで車が衝突した場合、抱いている子どもの体重は実際の約30倍にも相当します。体重10kgの子どもであれば約300kgにもなり、大人の力では到底支えきれません。また、シートベルトは大人用なので、子どもの身体には合いません。必ず体格に合ったチャイルドシートを使いましょう。



④ チャイルドシートは後部座席で使いましょう

チャイルドシートは後部座席に取り付けることをおすすめします。助手席のエアバックは、運転席のものより大きく、膨らむ力も強力です。骨格等が発育段階にある乳・幼児では、重大な傷害につながる危険があります。

やむを得ず助手席に取り付ける場合は、座席を最も後方に下げないようにしましょう。

